

# 特集 環境ボランティアとコーディネーションを考える



地球温暖化と生物の多様性が重要な議題となった北海道洞爺湖のG8サミットをはじめ、マスコミを通して、環境についての情報が繰り返し入ってくるようになりました。地球温暖化、砂漠化の進行、熱帯林の減少など、地球規模に広がる環境問題が急速に深刻化しています。本号では、環境問題にかかわるボランティアの実情を紹介し、この分野におけるボランティアコーディネーターの役割を考えます。

東京・青山にある地球環境パートナーシッププラザ(GEIC)では、企業やボランティアセンターなどからの環境ボランティアの相談が増加している。各地のボランティアセンターにおいても環境ボランティアに関する相談が目立つようになった。そのような中、ボランティアコーディネーターは単に人と活動をつなげるだけではなく、環境活動の意義や本質、地域と世界のつながりなどを伝えていく役割がある。

## ■好きなことから始める環境ボランティア

環境問題への危機感が高まる中で「何か行動に移したいが、どんな活動があるかわからず、きっかけがつかめない」という相談を受けた時には、「普段の暮らしで興味を持っていることや、できそうなことを考えてみては？」とアドバイスしてみてもどうか。

実際に環境ボランティアをしている人は、ダイバーがサンゴ礁の健康度を調べる、音楽好きが野外コンサート会場でゴミの分別をする、ハイカーが清掃登山をするなど、自分が好きな活動をきっかけにはじめることが多いのだ。また、NPO の販売するTシャツを買う、棚田や大豆畑のオーナーになるなど、日常生活でもできることがたくさんある。

環境 NPO スタッフやボランティアに活動の魅力を聞くと、「ストレス解消」「自然と触れ合える」という大人の遠足のような楽しさに加えて、世代やシガラミを超えた仲間ができる満足感、さらに「地域の中で人のつながりができた」「地球環境や暮らしを見つめなおすきっかけになった」といった、社会的意義を実感できると言う人もいる。

環境というと、「電気を消す」などがまんするイメージもあるが、海や山での活動、農山村との交流など、自然からの癒し、肉体労働のあとの充実感、緑を育てる楽しさを味わえる活動もある。また、環境ボランティアは、環境問題を解決する、自

然を守るということを目的としているが、世代を超えた交流や汗を流す中から結果として生まれてくるのは、「人と人とのつながり」であるというおもしろさもある。

環境活動は自然を相手にする活動が多いこともあり、取り組みの成果が表れるには長期的な視点が必要である。継続的な活動が求められるので、楽しく参加できることは大切だし、かたいことをいわず、まずははじめてみることに、現場を知る人が増えることは重要だ。

## ■ボランティアコーディネーターの役割

それでは、ボランティアの数が増えていけば、環境問題は解決するのだろうか？ もし、ボランティアを単なる植林やゴミ拾いの頭数にとらえたとすれば、加速度を増して深刻化し、複雑に問題がからみあう地球環境の悪化に追いつくことはできないだろう。

そこで、コーディネーターの役割が重要になってくる。

### ▽問題の構造に目を向ける

海岸に漂着するゴミのクリーンアップをボランティアの手で続けているJEAN(クリーンアップ全国事務局)では、クリーンアップをする人が増えることで意識が変わり、10年たてば海岸は変わるだろうと期待していたが、実際には、漂着するゴミの一部は海外から流れ着いたもので、海へと出たものはまた地域や国を超えて流れていくという現実があり、国内のポイ捨てやリサイクルの意識が変化するだけでは解決しなかった。高齢化や過疎化がすすむ離島では、住民による清掃は限界に来ている。地域内で処理できず、処分場まで運搬する費用は自治体やボランティアの負担となり、回収するほどお金がかかる。環境問題やボランティアへの関心は高くなったが、海のゴミ問題が「拾えばなんとかなる」問題という見方では解決しない。そこで、地元を中心に、抜本的な発

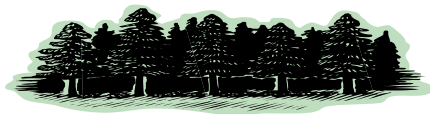
生源への対策・制度の導入を、国に求めるようになった。その結果、関係省庁会議が開催され、各省の事業がすすめられるようになってきた。

### ▽多様なつながりをつくる

さらにJEANの呼びかけで、市民・行政・研究者などによるプラットフォーム「海ごみフォーラム・JAPAN」が2007年設置された。また、国際間でも、日中韓露の政府担当者・NGO・研究者が共同でごみの調査を行った。ここに至るには、17年にわたってボランティアでゴミを拾い、その中身を調査し続けてきた実績と膨大なデータが裏づけとなっている。このようにして、ボランティアがゴミを拾うことだけでなく、発生源対策を見据えた制度の確立を両輪ですすすめることで、ボランティアのクリーンアップが、抜本的な解決に活かされていく地盤ができたのだ。

コーディネーターは、参加しやすいプログラムを入り口として、NGOへの敷居の高さを低くするとともに、目の前にある課題や、増えていくボランティア希望者のニーズにのみよりそうのではなく、構造的な問題にも目を向け、ボランティアの力を生かしていく役割を持っている。そのためには、単に活動と人をむすびつけるだけでなく、活動と活動、また、同じ地域の異分野や異なるセクターを結びつける「場」をつくっていくことが重要である。

地球規模での重要課題となっている、まったなしの環境破壊を食い止めるためには、既存の制度や規制を見直し、地域をどう変えていくかという広い視野を持ってさまざまな人や組織がつながって、活動を広げていくことが、求められている。



### ●参考：環境ボランティアの分野

	フィールドでの活動	事務局・フィールド外
森林を守る	植林、枝打ち、草刈り、間伐、など森の手入れ、植物のモニタリング	【豊富な事務局作業】 ●情報：翻訳/ホームページ作成/新聞切り抜き/ニュースレターの編集・発送/データの整理 ●イベント関係：イベント補助(受付・案内・司会など)/運転手/写真・ビデオ・録音・テープおこし
水辺を守る	水質調査(試薬や器具を用いるもの/植物・生物を観察)、クリーンアップ、侵食調査、水草を植える他	
身近な自然を守る	植生調査、聞き取り、自然観察会、乗園者ガイド、樹木・竹藪の手入れ、田んぼの手入れ、干潟の調査他	【コアスタッフへの道】 ●組織運営：電話番号/会計・労務/資金集め/理事・運営委員 ●その他：助成金獲得/政府行政へのロビーイング/調査・研究/キャンペーン活動/ボランティアコーディネート
野生生物を守る	生息域の保護、植樹、産卵の監視・保護・外来種の駆除、負傷した野鳥・野生動物の保護・救援活動、野生生物取引の監視・調査、国内法の改善提案他	
クリーンアップ	ごみ拾い、散乱ごみの調査分析、ART作品作成、ごみの捨て方指導、不法投棄監視他	
環境教育	自然体験型の活動(海、山、川、森、里山などの各現場)、リサイクル工作・石けん作り、教材・テキスト・映画・ポスターの作成・上映、自然学校、自然観察会、まちあるき、ワークショップ・ゲーム他	
海外ボランティア	海外のNGO活動を体験する(砂漠化防止植林、森の手入れ、動植物の保護、有機農業の応援、野外調査他)	
食と農	田畑のオーナーになる、購入する、グリーンツーリズム、援農(種まき、草取り、収穫、味噌・豆腐づくり、畑の手入れ)他	
持続可能な暮らし	グリーンコンシューマー、フェアトレード、地元の木で家を建てる、自然エネルギーを使う、寄付機能付きカードを使う、NPOグッズを買う、循環型地域モデルに参加する、市民ファンドに投資	

出典：「環境ボランティアコーディネートのツボ」P4 地球環境パートナーシッププラザ発行

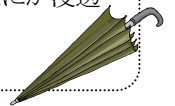
## こんな活動も！

### 【シブカサ】

☆街の中で取り組む新しい活動～ちょっとした気づきと

きっかけさえあれば、誰でも何かがはじめられる！

東京都渋谷区では、「シブカサ」と名付けられた活動が学生のサークルからスタートした。ホテルやコンビニなどの放置傘を回収しておしゃれなロゴシールを付け、提携するコンビニやカフェなどで無料で貸し出し、借りた傘はどの提携店でも返せるという「傘の使いまわし」の取り組みだ。世界一の傘の消費国である日本は、安いビニール傘を使い捨てる習慣が、いつのまにか浸透していることに一石を投じようという試みだ。



★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

### “ここが知りたい”環境ボランティア

●環境問題では、常に対立する価値観・考え方が共存していると思いますが？

### ▽マイ箸と割り箸

エコのために、「マイ箸」を持ち歩く人が増えています。それは、中国で大量生産をされる割り箸が、森林破壊を招いているということへの懸念からきていて、適切な森林管理をしたと認められるFSC認証のこだわりのマイ箸を持つ人もいます。一方で、日本国内では、「間伐材割り箸」というユニークな取り組みがあります。手入れをしないと荒れ果ててしまう日本の森林の現状に目を向け、木を豊かに育てるために間伐した木材を有効利用していこうという取り組みで、地域の障害者作業所が製造を担当し、障害者の雇用の拡大にも役立っています。この場合、できるだけたくさん割り箸を使うことで、森は豊かになり、雇用も促進されます。また、別の視点で見ると、使用後の割り箸のゴミのことや、洗ったマイ箸の洗剤や水の問題など、環境を考える切り口は多様です。

GEIC では、それらの多様な側面を、できるだけ多く示し、“自分で選んでいく”ということを大切にしています。それは、ひとつの「箸」という切り口から、環境について考える目を育てていくことになり、ものを買ったり、使ったりするときに、多様な情報を得て、選択していく習慣をつけることにもなるのです。消費者としての意識が変わり、その購買に呼応して企業の意識も変わっていくことにもつながります。おしゃれなマイ箸をきっかけに、環境の話に花が咲くランチタイムは素敵ですね。

### ●公園の自然をそのまま残したいと

いう人もいれば、使いやすいように草を刈りたいという人もいます。そのような場合のコーディネーションのポイントは？



#### ▽公園をめぐる意見の「対立」

地域の中の大事な場所は、人によって、大事な視点が異なります。行政によくあることかもしれませんが、「草が伸び放題で虫が出て子供が刺された」という苦情が出ると、草を刈る。するとそこで昆虫の観察会をしていた人たちからは苦情が出る。そこで、住民の対立関係が生まれてしまうのです。また、声には出さないが、別の使い方を考えていた人もいたかもしれません。大切なのは、時間をかけて、その場所にかかわる人たちの思いを、拾っていくことでしょう。話ができる場をつくって、小さなつぶやきも聞き逃さないことが大切です。公園を区画で分けてしまったり、中間の意見におさめるという中途半端なことではなく、どういう使い方があるのか、いろいろな立場の人がとことん話し合うということです。

一見遠回りで手間のかかることのようにですが、そこから出た結論は、「私たちの結論」であり、意見を言ったことに対して、責任を持つ立場になり、参加の意識が高まります。こうして私の大事な場所は、「私たちの大事な場所」になっていくのです。

●「社員でボランティア活動を考えているんです。20人ほどで、清掃活動とか、一度に全員で活動できるほうがいいのですが…」というような相談をよく受けます。多人数＋単発＋参加し易い＝清掃などの環境分野、という思考の図式、こんな時、何をどう、希望者に伝えていくべきなのでしょう？

GEICでも相談対応だけでなく、実際に全国に支社支店をもつ企業の社員ボランティア活動のコーディネートを実施しました。

はじめは、全国でいっせいにできる清掃活動の紹介を希望されていましたが、地域によって、課題や特色はさまざまです。北海道から九州まで、お国柄満載の活動につながりました。

支店のあるところでは、社員はその地域の住民でもあり、NPOの方々と共に作業し、地域の歴史や文化や課題を知る中で、自然に守っていきたいという気持ちが芽生えてきたようです。また、立場の異なる方々と接することで、新たな視点を持たせたことや、社員同士でも作業の中でチームワークを育んだなどの効果を実感していました。受け入れ側にとっても、その日の作業の成果はもちろんのこと、一度にたくさんの方が現場を体験してくれたことや、企業の受け入れ自体がNPOの実績になるなどのメリットを感じていました。

営業マンは、礼儀正しく、笑顔も気持ちがよく、体力もあり、体験の中から活動の意義を見つけだす力もありました。きっかけは“動員”であっても、継続につながるコーディネートの工夫で、いい関係づくりができると実感しました。

大人数＋単発＋参加しやすい＝清掃 の構図は、コーディネーター自身が持っている固定観念ではないでしょうか？福祉の分野との組み合わせで成功している例もあります。地域の都合と企業の事情を十分に聞いて、いいプログラムをアレンジしていくことは、環境に限らず、コーディネーターの力量です。清掃でも、社員の方が参加する意味づけや意義を明らかにし、アレンジすることで、有意義なプログラムにすることができると思います。

### ●地域のなかの小さな環境活動よりも、地球規模での環境保護に目を向けないと、という話がありますが…。

あるボランティアセンターのスタッフからの相談で、「地域の中で緑を育む活動は盛んだが、洞爺湖サミットなど、地球環境問題が深刻化する中で、地球規模の視点が必要であり、地域ローカルなどとのんきなことも言っていられない時代だ。地域で小さなことをやるよりも、もっと海外に目を向けた活動を紹介するような講座を積極的に開いていきたいのだが」という趣旨の話がありました。得意な英語や海外体験をいかして、国際協力を希望する方も多いので、担当する地域内の活動にとどまらず、さまざまな活動を紹介できるようにアンテ

ナをはるのはとても大事なことです。

ただ、大切なことは、グローバルな問題も、身近な緑を守り、身近なコミュニティを紡いでいくことの積み重ねにあるという視点も、ぜひお話しいただければと思います。

世界は、小さなコミュニティの集合体ともいえますし、ローカルな取組のなかで、グローバルな視点を持つことが重要だということです。

環境問題は、エネルギーや資源を大量に消費する生活様式への変化が原因であり、すべての人が被害者でもあり、加害者でもあるとも言われますが、一握りの先進国の経済活動のために、真っ先に被害を受けるのが、環境破壊の原因をつくっていない発展途上国にあるという一種の加害者と被

害者の関係があるともいえます。

そこで、私たちのふだんの暮らしと世界の現状のつながりに気づき、足元を見直すこと、地域の緑を守ることが、地球規模の問題を解決することになるという意識をもつことが、重要です。例えば、身近な食や生活用品などが、途上国の環境破壊や貧困・平和につながっているということに気づくような講座も合わせてあるとよいのかなと思います。

Think Globally, Act Locallyの視点ですね。

□執筆：須藤美智子(地球環境パートナーシッププラザ／日本ボランティアコーディネーター協会理事)



もっと知りたい！という方に、最新ニュースや環境に関する情報が満載のサイトや関連書籍をご紹介します

#### 【お勧めサイト】

☆地球環境パートナーシッププラザ(GEIC) <http://www.geic.or.jp/geic/>

環境省と国際連合大学が共同で運営する環境情報センターのサイトです。環境関係の情報やセミナーだけでなく、持続可能な社会の実現のために、NPO・企業・行政の環境パートナーシップの促進を行うさまざまな取り組みを紹介しています。

☆環境らしんばん <http://plaza.geic.or.jp/>

地球環境パートナーシッププラザのホームページ内にある情報サイトです。環境ボランティアの情報が満載です。そのほか、登録している環境NPOの団体情報やイベント、セミナー、スタッフ募集、書籍紹介など、環境ボランティアに興味のある人には楽しい情報が盛りだくさんです。

☆環境市民 <http://www.kankyoshimin.org>

京都を中心に、環境問題に対して多方面から総合的に取り組み、具体的な実践活動を行っているNGO/NPOのサイトです。環境市民のメンバー書いた環境に関する読み物を掲載したコーナーもあります。

#### 【お勧めの本】

☆「やってみよう！環境ボランティア」 地球環境パートナーシッププラザ発行 B5判 24頁

環境ボランティアの特徴や魅力、具体的な活動事例、団体紹介のみならず、関連サイトや書籍の紹介まで、情報満載の冊子です。

☆「環境ボランティア・送り出し側・受け入れ側・中間支援組織スタッフのための

環境ボランティアコーディネートのツボ」 地球環境パートナーシッププラザ発行 A4判 16頁

ボランティアセンターなど環境ボランティアを紹介する中間支援組織、ボランティアを募集し、受け入れるNPO、社員や学生を送り出す企業や学校。それぞれの立場で存在しているコーディネーターが共有できる環境ボランティア特有の「コーディネートのツボ」をわかりやすく、具体的に紹介しています。

☆『環境問題の「もうちょっと知りたい」に答えるハンドブック』

環境市民発行 A5判 93頁 定価 630円(税込)

環境の取り組みを進めると、経済の足かせになるのでは？これ以上省エネはできないでしょう…。リサイクルはせずに燃やすほうがいい？などなど、ふとした疑問や思いに答えてくれるハンドブックです。企業や自治体の環境担当者、環境活動を実践されている方、環境に関心、疑問のある方におすすめ！です。

☆「もったいないばあさんと考えよう 世界のこと」 真珠まりこ 講談社 定価1050円(税込)

貧困・戦争など世界で起きている問題と私たちの身近な生活が密接にかかわっていることを、もったいないばあさんが解説。親子で読める絵本。